

私たちの支援先

福島県および隣接県の放射能測定室支援
いわき放射能測定室たらちね他の測定所

保養運営費支援

沖縄・球美の里(くみのさと) 保養施設@久米島
たらちねが運営
岡山県、首都圏など 5 団体以上を支援

甲状腺検診支援

たらちねクリニックで無料検診
および福島県内各地と隣接県で出張検診

子ども応援金

病気の子ども支援、学資支援

その他支援

フードバンク支援
フードバンクふくしま (いわき市)
KAKECOMI (カケコミ/白河市)
くまべこ・子どもを守るママの会 (大熊町・会津)



※◀: 甲状腺検診
たらちねクリニック
※表紙の写真も含め
他は全て沖縄県・
久米島町



球美の里ロゴ
ウレシーサー

未来の福島子ども基金 規約

- 1、本会の名称：「未来の福島子ども基金」
 - 2、目的：福島原発震災に遭った被災者を支援するため、情宣・募金活動を行う
 - 3、会費：3,000 円、学生会員 2,000 円、維持会員 10,000円の年会費を納入する
 - 4、役員：代表 1 名、若干名の世話人をおく。世話人の中から会計、監査を選任する
 - 5、会員はそれぞれ可能な範囲で創意工夫して自由な支援活動を行う
 - 6、本会は印刷物、メール、ネット、等の媒体を通じて適宜活動報告を行う
 - 7、毎年 1 回、総会を開き、事業および会計について報告する
 - 8、事務局：埼玉県志木市
 - 9、活動開始：2011年 6 月 1 日より(会計年度 6 月 1 日より翌年5月31日まで)
- *会費には寄付金も含まれる。 *経費は募金額の 1 割以内をめどとする。
*当基金は任意団体です。税金控除の対象となりません。ご了解ください。

※ご協力ください※

維持会員 10,000円 一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

※会費には寄付金も含まれます
※寄付金はいくらからでも受け付けています

口座名「未来の福島子ども基金」

ゆうちょ銀行

郵便振替口座 00190-0-496774

他の金融機関からゆうちょ銀行へお振込の場合
店番：019 店名：〇一九店 (ゼロイチキウ店)
預金種目：当座 0496774

三菱UFJ銀行

神楽坂支店 (支店番号052) 普通口座 0064011

未来の福島子ども基金

<http://fukushimachildrensfund.org/>

<https://www.facebook.com/fukushimachildrensfund/>

E-mail info@fukushimachildrensfund.org

事務局: 353-0006 埼玉県志木市館 2-3-4-409 向井気付

Tel:090-3539-7611 Fax:048-470-1502

HP



FB



YouTube



E-mail



2024年5月作成

チェルノブイリから学び、子どもたちを守る



福島の子どもたち
を応援します!



未来の福島
Fukushima Children's Fund
子ども基金

私たちの支援する 福島子ども保養プロジェクトとは

放射能に汚染された土地に囲まれて暮らす子どもたちは、汚染されていない環境で過ごすことで、体内の放射性物質を減らすことができます。屋外で、のびのび身体を動かすことでストレスから解放され、免疫力は高まり病気にかかりにくくなります。

1986年に起きた旧ソ連のチェルノブイリ原発事故の後、チェルノブイリ法では、年間1ミリシーベルト以上の汚染地域に住む子どもたちに年間3週間程度の保養が定められています。ベラルーシでは現在も国の責任において保養を実施。姉妹団体のチェルノブイリ子ども基金では今も保養の支援を行なっています。

日本でも、国の未来を背負って立つ子どもたちの健康は、国や県が率先して守るべきです。しかし、保養の取り組みはまったく行われていません。私たちは保養の重要性を社会全体に積極的にアピールし、保養を行なっている全国の皆さんと協力しあって、子どもたちを守りたいと思います。

コロナ禍において多くの団体が規模を縮小しながらも、保養を継続してきました。

沖縄・球美の里の支援を中心に、全国各地の保養団体もできるだけ支援していきます。



球美の里から見える沖縄県久米島の海

私たちの近年のイベントから

たらちね海洋調査：東電福島第一原発の沖合1.5km地点でのサンプリング調査を2015年から2024年3月までに45回目の調査を実施しています。写真は2022年7月の調査に参加した黒部代表。詳細情報はたらちねのwebをご覧ください。



2023年8月6日 志木市民会館

渡辺久子先生 乳幼児精神科医講演会 「震災と子どもの心」

「科学的知見とご自身の体験を交えたお話しだった」「生命と人間社会についてのお話に感銘を受けた」など参加者からの感想。当基金YouTubeチャンネルで講演を聞くことができます。

ウクライナ緊急支援 カテリーナコンサート

2022年2月、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、その年の5月に緊急支援コンサートを開催。いまだ、先の見えない状態が続いています。いつときも早く平穏な生活に戻りますように…



*コンサートも一部Youtubeにアップしています。

未来の福島子ども基金の取り組み

代表 小児科医 黒部信一

○福島原発事故が起きて子どもの被害者の支援のために、まず内部被ばくを減らす目的で飲食物の放射線量を測定すべく、数か所の市民放射能測定所へ測定器や測定費用の支援をしてきました。

○次に行なったのは、低線量被曝し続けているのに避難できない子どもたちのために、保養所で長期間保養させることです。保養はチェルノブイリ支援活動で経験してきたことなので、被曝線量を減らす効果があることは判っています。外部被ばくのない土地で、被ばくしていない飲食物を食べ、のびのび体を動かし、生きる希望をもらいます。これは精神神経免疫学から言えば、こころが免疫を支配しているので効果があります。

○チェルノブイリでは、貧困のために内部被曝を避けられず、事故後も甲状腺がんを始めとするがんや先天性疾患、さまざまな健康被害が続いています。日本では、甲状腺がん以外はほとんど明らかになっていません。最近やっと判ってきたことは、子どものアレルギー疾患と発達障害が福島で目立つことです。それと共に福島はPTSD(心的外傷後ストレス障害)が少なくないことです。「チェルノブイリ原発の事故後、母親が妊娠中に放射能を浴びたベラルーシの子どもたちは、他の子どもたちに比べて発育や認識上の障害の発生が著しく高い。しかも言語や情緒障害への影響という点では、放射能の直接汚染に加えて放射能汚染への不安、避難によるストレス、日常生活の喪失の方が大きかった」という研究結果も示されています。(参考『格差は心を壊す—比較という呪縛』ウイルキンソン&ピケット著/英)

○コロナウイルス感染症のパンデミックのために、沖縄県久米島にある保養所「沖縄・球美の里(くみのさと)」では、学童の集団保養が出来なくなり、少数の家族単位でファミリー保養を続けています。福島原発事故後早くも13年が経ち当初の役割だった保養と共にこころのケアをしていき、さらに高校生の勉学支援をすることとしました。また医療支援も始めています。